

VMware vRealize Orchestrator 8.2 リリース ノート

vRealize Orchestrator Appliance 8.2 | 2020 年 10 月 6 日 | ビルド 16995073

vRealize Orchestrator Update Repository 8.2 | 2020 年 10 月 13 日 | ビルド 17015463

リリース ノートを頻繁に確認して、最新の追加情報や更新情報を入手してください。

リリース ノートの概要

本リリース ノートには、次のトピックが含まれています。

- [vRealize Orchestrator 8.2 の新機能](#)
- [不快な言語表現に関する注意事項](#)
- [機能に関する注意事項](#)
- [VMware vRealize Orchestrator 8.2 アプライアンスの展開](#)
- [vRealize Orchestrator 8.2 へのアップグレードおよび移行](#)
- [root パスワードの有効期限の延長](#)
- [vRealize Orchestrator 8.2 とともにインストールされるプラグイン](#)
- [利用可能な言語に関するサポート](#)
- [フィードバックを提出する方法](#)
- [vRealize Orchestrator の以前のリリース](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

重要

KB 87120 の手順を実行した後にアップグレードが失敗する

KB 87120 に記載されている CVE-2021-44228 および CVE-2021-45046 log4j の脆弱性に対処するために使用される手順を実行すると、vRealize Automation および vRealize Orchestrator 8.6.2 以前でアップグレードが失敗する場合があります。回避策については、[KB 87794](#) を参照してください。

vRealize Orchestrator 8.2 の新機能

vRealize Orchestrator 8.2 は、主にメンテナンスと安定性を強化するためのリリースです。これで、ワークフローとアクションを参照する親ワークフローから直接編集できるようになりました。詳細については、「[親ワークフローからのワークフローとアクションの編集](#)」を参照してください。

vRealize Automation REST API の新しいバージョン

vRealize Automation REST API の新しいバージョンは、すべての vRealize Automation リリースで使用できます。新しいバージョンでは、リソース サポートが展開あたり 300 リソースまで増加し、パフォーマンスが向上します。API ユーザーで、API を以前のバージョンにロックしていない場合、API 応答が変更されることがあります。ベスト プラクティスとして、apiVersion 変数を使用して、使用するバージョンに API をロックします。例：

- API を vRealize Automation 8.1 API にロックするには、apiVersion=2020-01-30 を使用します。
- API を vRealize Automation 8.2 API にロックするには、apiVersion=2020-08-25 を使用します。

ロックを解除したままにすると、API 要求はデフォルトで最新バージョン (apiVersion=2020-08-25) になります。

API を特定のバージョンにロックする方法については、『vRealize Automation 8.2 API プログラミング ガイド』(<https://code.vmware.com/docs/12597>) の「API バージョン管理」セクションを参照してください。

注：vRealize Orchestrator REST API は apiVersion パラメータをサポートしていないため、後方互換性があります。

不快な言語表現に関する注意事項

VMware では、あらゆる立場の人々を尊重しています。この原則をお客様、パートナー、社内コミュニティで推進するために、弊社のドキュメントからは非包括語が削除されています。

機能に関する注意事項

ワークフロー トークンの再生機能は、デフォルトで無効になりました。各ワークフローの実行に対して個別にトークンの再生を実行することや、vRealize Orchestrator コントロール センターからすべてのワークフローの実行に対してこの機能を有効にすることができます。詳細については、「[vRealize Orchestrator クライアントでのワークフロー トークンの再生の使用](#)」を参照してください。

VMware vRealize Orchestrator 8.2 アプライアンスの展開

vRealize Orchestrator Appliance は OVA ファイルとして配布される VMware Photon OS ベースのアプライアンスです。内部 PostgreSQL データベースを使用して事前にビルド、構成されており、vCenter Server 6.0 以降で展開できます。

vRealize Orchestrator Appliance を使用すると、VMware クラウド スタック (vRealize Automation、vCenter Server を含む) と、お使いの IT プロセスおよび環境を、すばやく、簡単に、低コストで統合できます。

vRealize Orchestrator Appliance を展開する手順については、「[vRealize Orchestrator Appliance のダウンロードと展開](#)」を参照してください。

vRealize Orchestrator Appliance サーバの設定の詳細については、「[スタンドアローン vRealize Orchestrator サーバの構成](#)」を参照してください。

vRealize Orchestrator 8.2 へのアップグレードおよび移行

マウントされた ISO イメージを使用して、スタンドアローンまたはクラスタ化された vRealize Orchestrator 8.0 または 8.0.1 展開を最新の製品バージョンにアップグレードできます。

vRealize Orchestrator Appliance のアップグレードの詳細については、「[vRealize Orchestrator のアップグレード](#)」を参照してください。

vSphere または vRealize Automation で認証されたスタンドアローン vRealize Orchestrator インスタンスを vRealize Orchestrator 8.2 に移行できます。移行でサポートされる vRealize Orchestrator 7.x の製品バージョンは、バージョン 7.3 から 7.6 です。クラスタ化された vRealize Orchestrator 7.x の展開の移行はサポートされません。

vRealize Orchestrator Appliance の移行の詳細については、「[vRealize Orchestrator の移行](#)」を参照してください。

root パスワードの有効期限の延長

重要：セキュリティ上の理由から、vRealize Orchestrator Appliance の root アカウントのパスワード有効期限は 365 日間に設定されています。アカウントの有効期限を延長するには、vRealize Orchestrator Appliance に root としてログインし、次のコマンドを実行します。

```
passwd -x number_of_days name_of_account
```

vRealize Orchestrator Appliance の root パスワードが永続的に保持されるようにするには、次のコマンドを実行します。

```
passwd -x 99999 root
```

vRealize Orchestrator 8.2 とともにインストールされるプラグイン

vRealize Orchestrator 8.2 をインストールすると、デフォルトで次のプラグインもインストールされます

- vRealize Orchestrator vCenter Server Plug-In 6.5.0
- vRealize Orchestrator Mail Plug-In 7.0.3
- vRealize Orchestrator SQL Plug-In 1.1.5
- vRealize Orchestrator SSH Plug-In 7.2.0
- vRealize Orchestrator SOAP Plug-In 2.0.2
- vRealize Orchestrator HTTP-REST Plug-In 2.3.8
- Microsoft Active Directory 3.0.11 用の vRealize Orchestrator Plug-In
- vRealize Orchestrator AMQP Plug-In 1.0.4
- vRealize Orchestrator SNMP Plug-In 1.0.3
- vRealize Orchestrator PowerShell Plug-In 1.0.18
- vRealize Orchestrator Multi-Node Plug-In 8.2.0
- vRealize Orchestrator Dynamic Types 1.3.6
- vRealize Orchestrator vCloud Suite API (vAPI) Plug-In 7.5.2

利用可能な言語に関するサポート

vRealize Orchestrator 8.2 は vRealize Orchestrator コントロール センターおよび vRealize Orchestrator クライアントの複数言語対応を可能にします。

フィードバックを提出する方法

お客様からのフィードバックをお待ちしております。次のいずれかの方法でフィードバックを提出してください。

- サポート リクエスト (SR)

- [vRealize Orchestrator コミュニティ フォーラム](#)

サポート リクエスト

発生した問題はすべてサポート リクエスト (SR) として提出してください。これは、VMware に別の方法で報告している問題についても同様です。

VMware のサポートの詳細およびサポート リクエスト (SR) の発行方法については、[VMware の公式サポート提供ページ](#)を参照してください。

SR にはログ ファイルも添付してください。

vRealize Orchestrator のログを生成するには、以下の操作を実行します。

1.vRealize Orchestrator Appliance のコマンド ラインに **root** としてログインします。

2.*vracli log-bundle* コマンドを実行します。

結果：ログ バンドルは、vRealize Orchestrator Appliance のルート フォルダに生成されます。

vRealize Orchestrator の以前のリリース

vRealize Orchestrator の以前のリリースの機能と問題については、各リリースのリリース ノートに記載されています。vRealize Orchestrator の以前のリリースのリリース ノートを確認するには、次のいずれかのリンクをクリックしてください。

- [vRealize Orchestrator 8.1](#)
- [vRealize Orchestrator 8.0.1](#)
- [vRealize Orchestrator 8.0](#)
- [vRealize Orchestrator 7.6.0](#)
- [vRealize Orchestrator 7.5.0](#)
- [vRealize Orchestrator 7.4.0](#)

解決した問題

- **カード ビューから 20 個を超えるオブジェクト カードをロードできない**
2K 以上の解像度を使用するようにディスプレイを設定した場合、または高さが 1080 ピクセルを超えるカスタム解像度を設定した場合は、カード ビューで 20 個を超えるカードをロードできません。
- **高可用性 (HA) の vRealize Automation 8.0.1 環境をアップグレードした後、組み込みの vRealize Orchestrator クライアントのツリー ビューに重複したフォルダが表示される**
vRealize Automation 8.1 へのアップグレード後、組み込みの vRealize Orchestrator クライアントのツリー ビューに、同じ名前の複数のフォルダが表示されます。いずれか 1 つのフォルダが使用されており、他のフォルダは空である可能性があります。同様の問題が、高可用性 (HA) の vRealize Automation 8.1 の新しい展開でも発生することがあります。
- **OGNL で「__current」変数を使用している場合、レガシーのプレゼンテーション検証を含むワークフローを実行すると失敗する**
ワークフローが Orchestrator レガシー クライアントで作成されており、OGNL カスタム検証スクリプトで「__current」変数を使用している場合、フィールド値が SDK オブジェクトであると、vRealize Orchestrator クライアントからの開始に失敗します。
- **プル操作とプッシュ操作の完了に時間がかかる**
場合によっては、vRealize Orchestrator クライアントから統合された Git サーバへのプル操作とプッシュ操作が 2 分間続きます。

- **プロパティおよび配列/プロパティ タイプは、デフォルトの外部ソース値を持つことができない**
ワークフロー入力フォームでプロパティおよび配列/プロパティ タイプに外部値を使用すると、正しいアクションが表示されません。正しいアクションを設定できた場合でも、入力フォームには検証時に無効な値が入力されます。
- **ブレイクポイントが、[バージョン履歴] の視覚的な差分ビューで有効になっている**
視覚的な差分ビューで要素とスクリプト可能タスクのブレイクポイントを配置することができます。
- **ツリー ビューに [複製] ボタンが見つからない**
フォルダまたはツリー ビューで個々のオブジェクトを選択したときに、[複製] ボタンが表示されません。
- **組み込みのアクションを複製できない**
標準の vRealize Orchestrator ライブラリに含まれるアクションを編集する場合は、最初に関連するアクションを複製する必要があります。アクション カードに [複製] ボタンがないため、アクションを複製できません。
- **[バージョン履歴] ページに、現在のバージョンの不正確なデータが表示される。プッシュ操作を実行すると、コンテンツに対して行われた最後の変更が表示されなくなる**
このエラーは、複数のオブジェクト エディタが同時に開いた状態で、1 人以上のユーザーが変更を行っている場合に発生する可能性があります。たとえば、ユーザーがブラウザの別々のタブで vRealize Orchestrator ワークフローと vRealize Orchestrator アクションに変更を加える場合です。ワークフローとアクションの両方に対していくつかの変更を加えてから、ワークフローに対する変更内容を保存します。更新されたワークフローを統合 Git リポジトリにプッシュすると、保存したアクションの変更は失われます。
- **ブラウザ ウィンドウにアクティビティがある場合でも、vRealize Orchestrator クライアントからログアウトしてしまう**
セッションがタイムアウトになり、ブラウザで長時間非アクティブになっている場合、ログアウトされます。デフォルトでは、この期間は 25 分に設定されています。複数のブラウザ タブまたはブラウザ ウィンドウが同じアプリケーションに対して開かれている場合、非アクティブによるタイムアウトは、各タブまたは各ウィンドウで個別にカウントされます。したがって、いずれかのタブでアクティブになっている場合でも、セッションからログアウトされます。
- **ワークフローの入力フォームに含まれているアクションが、ワークフローを含むパッケージに存在しない**
ワークフローの入力フォームに含まれているアクションがワークフローを含んでいるパッケージに見つかりません。

既知の問題

既知の問題には、次のトピックが含まれます。

- [構成の問題](#)
- [移行/アップグレードの問題](#)
- [Web クライアントの問題](#)
- [その他の問題](#)
- [以前の既知の問題](#)

構成の問題

- **vRealize Orchestrator コントロール センターのコンテナが起動に失敗し、ブラウザで開くことができない**
この問題は、/data/vco/usr/lib/vco/configuration/log/catalina.log ファイル内のエラーが原因で発生します。

回避策：

1. 次のコマンドを実行して、停止した vco-app ポッドを再起動します。

```
kubectl -n prelude delete pod vco-app[id]
```

2. 数秒後、そのポッドが削除され、新しいポッドが展開されます。

```
* vco-app-[id_new_deployment]          3/3      Running      30          4d6h
```

移行/アップグレードの問題

- **vRealize Orchestrator 7.4 を vRealize Orchestrator 8.2 に移行すると、[Git 履歴] ページのアクションとリソースに対するローカルの変更が空白になる**

vRealize Orchestrator 7.4 を vRealize Orchestrator 8.2 に移行すると、[Git 履歴] ページのアクションとリソースに対するローカルの変更が空白になります。コンテンツを使用することができません。

回避策： vRealize Orchestrator インスタンスを最初に 7.4 から 8.1 HF1/HF2 に移行してから、8.2 にアップグレードします。

- **vRealize Orchestrator Git 統合を使用するときに、プラグインのコンテンツが Git でのローカルの変更として検出されることがある**

vRealize Automation または vRealize Orchestrator 8.1 パッチ 3 のインストール後、vCenter プラグインからのワークフローとアクションは、Workflows/Library/vCenter/Virtual Machine management/Device Management/Add CD-ROM/workflow.xml などの Git でのローカル変更として検出されます。

回避策はありません。

- **vRealize Automation 8.1 のパッチ展開後、vco アプリケーションの Kubernetes ポッドが CrashLoopBackOff のステータスで失敗する**

vco-app-xxx ログには、次のようなエントリが含まれています。

```
[ERROR] ERROR: duplicate key value violates unique constraint "uk_vmoreselt"
```

```
Detail: Key (tenantid, categoryid, name)=(__SYSTEM, 8a7482a57310c83401733xxxxxxxxxxxxx, configuration.json) already exists.
```

```
Where: SQL statement "UPDATE vmo_resourceelement
```

```
SET categoryid = '8a7482a57310c83401733xxxxxxxxx'
```

```
WHERE categoryid IN ( SELECT t.id FROM Tree t WHERE t.id != '8a7482a57310c83401733xxxxxxxxxxxxx'
AND t.name = 'SecurityModel' AND t.level = '11' AND t.parentcategoryid =
'8a7482a57310c83401733xxxxxxxxx' AND t.tenantid = '__SYSTEM') and tenantid = '__SYSTEM'"
```

回避策：

1. vRealize Automation アプライアンスの Posgres DB にログインします。

2. vco-db のパスワードを特定します。

- `kubectl get secret db-credentials -n prelude -o yaml` コマンドを実行します。

- vco-db の値を特定し、復号化します（「vco-db value」をエコー|base64--デコード）。

3. Postgres ポッド コンソールに移動するには、`kubectl exec -it postgres-0 /bin/bash -n prelude` コマンドを実行します。

4. ebs-db にログインするには、`psql -U vco-db -h localhost` コマンドを実行します。

5. データベースをクリーンアップします。

- 次の categoryid でエントリを確認します。SELECT name, categoryid FROM vmo_resourceelement ORDER BY name

- 次の categoryid でエントリを削除します。DELETE FROM vmo_resourceelement WHERE categoryid '8a7482a57310c83401733xxxxxxxxx'.

- **vRealize Orchestrator 7.4 をバージョン 8.1 のパッチ 3 またはバージョン 8.2 に移行する場合、システムワークフローは [Git 履歴] のローカル変更として検出される**

バージョン 7.4 からバージョン 8.1 のパッチ 3 またはバージョン 8.2 に移行されたシステム ワークフローは、Git 履歴のローカル変更として検出されます。

回避策はありません。

- **アップグレード後、[待機中の入力] カテゴリにワークフロー トークンがゼロとして表示される**
アップグレード後、[ワークフローの実行] と [待機中の入力] カテゴリに表示される待機中状態のトークン数が異なります。

回避策はありません。

Web クライアントの問題

- **保護された Git ブランチへのコミットのプッシュが失敗する**
構成された Git ブランチが保護されている場合、プッシュ操作は常に失敗しますが、プッシュは成功したというメッセージが表示されます。

回避策はありません。

- **ワークフロー スキーマから要素を選択したときにワークフロー ログが変更されない**
ワークフロー スキーマから要素を選択したときに、ログが変更されません。ログが表示されるのは、最初に選択した要素についてのみです。

回避策：トークンの再生を有効にし、トークンのツリー ビューから要素を選択します。

- **ワークフローの検証エラーが、エラーを解決した後もワークフローで保持される。**
エラーを解決して検証済みのワークフローを保存した後、検証エラーがワークフロー スキーマから消えません。

回避策はありません。

- **新しいランタイムでカスタム決定要素のスクリプトを実行すると、エラーを受信する**
JavaScript 以外のランタイムは、カスタム決定要素のスクリプトをサポートしていません。

回避策：Python、Node.js、または PowerShell スクリプトにカスタム決定のスクリプトを追加しないでください。

- **ユーザーがアクセス権のないコンテンツに対する Git の変更を破棄できる**
ワークフロー デザイナ権限を持つユーザーは、アクセス権のないコンテンツに対する Git の変更を [Git 履歴] ページから破棄できます。

回避策はありません。

- **vRealize Orchestrator クライアントで、名前に下線文字が含まれるタグが使用されている**
vRealize Orchestrator クライアントでは、3 文字未満のタグ名または空白文字が含まれる名前はサポートされていません。短い名前のオブジェクトから自動的に生成されるすべてのタグには、アンダースコア文字を使用したサフィックスが付きます。また、空白文字はすべてアンダースコアに置換されます。たとえば、Orchestrator レガシー クライアントの `/Library/project_A/app/DR/backup` に配置されているワークフローでは、移行されると、vRealize Orchestrator クライアントに次の自動生成されたタグが含まれます。「Library」、「project_A」、「app」、「DR_」。

回避策：vRealize Orchestrator クライアントで新しいコンテンツを作成するときに、タグ付け規則に従います。

- **vRealize Orchestrator 7.6 からインポートされたコンテンツの一部が vRealize Orchestrator 8.0 で削除できない**

vRealize Orchestrator 7.6 から vRealize Orchestrator 8.x にインポートされたライブラリ ワークフローは、ライブラリ ワークフローが読み取り専用であるため、カスタム コンテンツの依存関係として削除することはできません。これらは vRealize Orchestrator 7.6 に存在していたものの、vRealize Orchestrator 8.x には存在せず、パッケージを使用してインポートされたものであることから、削除が必要になる場合があります。Git エラーは、vRealize Orchestrator 7.6 では有効であるが vRealize Orchestrator 8 では有効ではない文字を使用しているこれらのワークフローの一部に関連して発生する可能性があります。

回避策：エクスポートする前に、パッケージからライブラリ ワークフローを削除します。または、インポートする前にインポートからライブラリ ワークフローを選択解除することもできます。これらの回避策のいずれも使用しなかった場合は、インポート前に最後の vRealize Orchestrator データベースのバックアップをリストアできます。

- **ワークフローを複製して削除しても、ローカルの変更を使用できない**

ワークフローを複製してから削除します。Git 履歴には、削除されたワークフローのローカルの変更はありません。

回避策はありません。

- **アクティブなリポジトリを非アクティブに切り替えて、再びアクティブに戻すと、ローカル変更のプッシュを試行するときにエラーが発生する**

リポジトリの状態を変更すると、リポジトリへの次のコミット時にエラーが発生する可能性があります。次のようなエラー メッセージが表示されます。「エラー: リモートへのプッシュが次のステータスで失敗しました: REJECTED_NONFASTFORWARD (Error: Push to remote failed with status: REJECTED_NONFASTFORWARD)」

回避策：ローカルの変更を最初にプルしてからプッシュします。

- **リソース要素の詳細を更新できない**

vRealize Orchestrator クライアントでは、名前、説明、バージョン（ユーザーインターフェイスでは非表示）、mime タイプのリソース要素のプロパティを更新することはサポートされません。

回避策はありません。

- **vRealize Orchestrator または vRealize Automation 8.x にアップグレードすると、vRealize Orchestrator クライアントの一部のリソース要素が変更されたり、以前のバージョンに戻されたりすることがある**

この問題は、以前に vRealize Orchestrator クライアントで別のソース ファイルを使用して更新されたリソース要素で発生します。vRealize Orchestrator または vRealize Automation の展開をアップグレードした後、これらのリソース要素は旧バージョンによって置き換えられることがあります。これは断続的に発生する問題です。

回避策：

- 1.vRealize Orchestrator クライアントにログインします。
- 2.**[資産] > [リソース]** の順に移動します。
- 3.問題の影響を受けるリソース要素を選択します。
- 4.**[バージョン履歴]** タブを選択し、要素を適切なバージョンにリストアします。
- 5.影響を受けるすべてのリソース要素に対してこの手順を繰り返します。

- **スケジュール設定されたワークフローの実行が、UTC 時間に時間オフセットされた予測時間とは異なる時間にトリガされる**

workflow.scheduleRecurrently() 関数を使用するスクリプトを介してワークフローの実行をスケジュール設定すると、スケジュール設定されたワークフローは常に UTC 時間でトリガされます。UI はブラウザのタイムゾーンを繰り返しパターンに追加するため、vRealize Orchestrator クライアント UI と関数の動作の間には不一致があります。ただし、関数を使用する場合、タイムゾーンは繰り返しパターンに含まれず、ワークフローの実行をトリガする時間の計算は、サーバ側で UTC 時間で実行されます。

回避策：スクリプトでワークフローの実行をスケジュール設定する場合は、UTC 時間の値を使用します。

- **変数エディタで Regexp タイプの変数を適切に保存できない。エディタに正しくない値が表示される**
この問題は、Regexp タイプの変数が文字列ではなく特殊なオブジェクトとして誤って解釈されるために発生します。

回避策：string タイプの変数は、Regexp 変数に相当するため、使用するよう切り替えます。

- **Orchestrator レガシー クライアントで作成されたワークフローが重複すると、値オプションに外部アクションではなく定数が表示されることがある。**
Orchestrator レガシー クライアントで設計され、vRealize Orchestrator クライアントで複製されたワークフローの入力パラメータを編集するときに、値オプションが外部アクションではなく定数として設定されることがあります。

回避策：[入力フォーム] タブに移動し、必要な外部アクションを含めるように入力パラメータのプレゼンテーションを編集します。

- **戻り値タイプの問題のため、入力フォームの外部ソースとしてアクションを選択できない**
vRealize Orchestrator クライアントの [入力フォーム] タブで、デフォルト値または値オプションに対して Any または Array/Any のいずれかの戻り値タイプを持つアクションを選択できません。

回避策：

- 1.vRealize Orchestrator クライアントにログインします。
- 2.ワークフローを選択し、[入力フォーム] タブに移動します。
- 3.ウィジェットのデフォルト値または値オプションから期待される戻り値タイプを使用してアクションを設定し、変更を保存します。
- 4.デフォルト値または値オプションのアクションを選択してワークフローを保存し、アクションを以前のバージョンに戻すか、戻り値のタイプを Any タイプに戻します。

その他の問題

- **vmo_tokenreplay テーブルによって vRealize Orchestrator のデータベース サイズが非常に大きくなっている**

vmo_tokenreplay テーブルのサイズが非常に大きくなっています。

回避策：コントロールセンターに root としてログインします。拡張機能のプロパティで、トークン再生の拡張機能を選択し、すべてのワークフローの実行について記録再生 プロパティを無効にします。

- **より大きいサイズのパッケージをインポートすると、ステータス コード 500 でアップロードが失敗したことを示すメッセージが表示される**
デフォルトでは、インポートされたパッケージの最大サイズは 50 MB です。50 MB より大きいパッケージのインポートを試みると、アップロードが失敗したことを示すメッセージが表示されます。

回避策はありません。

- **新しい vRealize Orchestrator バージョンで作成されたパッケージを以前のバージョンにインポートすると、エラーが発生することがある**
vRealize Orchestrator バージョン間の互換性の問題が原因で、新しい製品バージョンで作成されたパッケージを以前のバージョンの vRealize Orchestrator 展開にインポートできません。

回避策はありません。

- **vCenter Server プラグインがポリシーをサポートしていない**
vRealize Orchestrator 用の vCenter Server プラグインでは、管理対象の vCenter Server インスタンスで発行されたイベントを、ポリシーを使用して監視することはできません。
- **マルチノード プラグインで [SSH コマンドの実行] ワークフローを実行すると、ワークフローが失敗する**

マルチノード プラグインを使用してリモート vRealize Orchestrator インスタンスを接続し、リモート リポジトリから同期されている **SSH コマンドの実行** ワークフローを実行すると、ワークフローが失敗します。

回避策：ワークフローが正常に実行されるようにするには、生成されたワークフローのローカル変数の名前を **[SSH コマンドの実行]** の最終スクリプト要素の名前に変更します。次のスクリプトは修正の例です。

```
var r = remoteToken.getOutputParameters();  
result = r.get("result");  
errorText = r.get("errorText");  
outputText = r.get("outputText");
```

以前の既知の問題

Copyright © 2023 VMware, Inc. All rights reserved.